

1 題材名 思い出のトロフィーをつくらう

2 題材の目標

- 自己の内面を立体作品に表すことに関心をもち、中学校生活の思い出を基にしてトロフィーをつくることに主体的に取り組もうとする。(美術への関心・意欲・態度)
- 中学校生活の思い出を基に主題を生み出し、構成を工夫しながら自分の思いに合った表現の構想を練ることができる。(発想や構想の能力)
- 材料や用具の特性を生かし、自分のイメージをもちながら表現の方法を工夫するなどして、創造的に表現することができる。(創造的な技能)
- 立体表現の面白さを感じ取るとともに、いろいろな作品のよさや工夫点などを感じ取り味わうことができる。(鑑賞の能力)

3 題材について

本題材は、第2学年及び第3学年の目標(2)「対象を見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす」ことを受け、A表現(1)のイ「主題などを基に想像力を働かせ、単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練ること」などに対応している。これまでの中学校生活をふり返り、頑張ったことや、思い出に残っているものを「トロフィー」という形に表現することで、主題を立体造形にする構成力や、美しさを意識した表現の技能などを身に付けることができる題材であると考えられる。

本学級の生徒は、美術の授業に落ち着いて取り組み、意欲的な面も多く見られる。しかし、自分なりの表現を考えたり、構想を深めながら制作することを苦手とし、ただ形にするだけで作品を完成させる傾向が見られる。

立体造形に対する意識調査の結果は次の表の通りである。

(3年〇組 35人 *月*日実施)

項目	回 答
1 絵を描くことと、物をつくることのどちらが好きですか？	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を描くことのほうが好き 7人 ・どちらかという絵を描くことのほうが好き 6人 ・どちらかという物をつくることのほうが好き 12人 ・物をつくることのほうが好き 10人
2 今までどんなものを粘土で制作しましたか？(複数回答)	動物 12人 食べ物 5人 貯金箱 7人 雪だるま 2人 建物 3人 植物 2人 幾何形体 2人

この結果を見ると、絵を描くことより、物をつくることのほうが好きだと感じている生徒が多いことが分かる。また、ほとんどの生徒が粘土で制作した経験はあるが、自分の考えや、抽象的な表現等に基づいてつくることについては未経験である。また、今回は「思い出」という想像の中から生まれた形を頼りに制作していくため、具体物だけでない抽象的な形を取り入れるなど、表現力の幅を広げることが必要であると考えられる。

そこで本題材では、トロフィーの本制作に入る前に、粘土造形の参考作品を見せたり、小学校から借りてきた、具体的な形にこだわらず自由につくられた作品を見せたりして、立体造形に対するイメージを膨らませる。さらに、本制作に入る前に、粘土を手で触りながら、丸める、ちぎる、へらを使うなど様々な表現の仕方を探らせるようにする。普段の授業では、課題前にアイデアスケッチを行うので、材料に触れるまでに時間がかかるが、本題材では、まず制作するものを決める前に、実際に粘土に触れることで、材料からの作品のイメージを明確にさせたい。また、つくる物にとらわれずに、自由な発想で粘土造形をすることで、想像力や表現力を培いたい。さらに、本時で制作したものは「表現コレクション」として美術室に展示することで、アイデアスケッチの際のヒントにつなげていきたいと考える。

4 学習計画及び評価計画 (11時間扱い) ○は本時

次	時	学習内容	評価規準	学習形態	評価の観点			
					関意	発想	技能	鑑賞
1	1	トロフィーの画像を鑑賞してトロフィーの形の特徴や美しさについて考える。	トロフィーについて興味をもち、今後の授業の課題を理解しようとしている。	一斉個人	◎			○
2	②	本制作に向けて、『表現コレクション』を制作する。	粘土の特性を生かし、様々な表現を工夫することができる。	一斉個人		◎	○	
3	3・4	トロフィーのアイデアスケッチを描く。	自分の主題を基に、全体と部分との関係や、形の美しさ等を考えて構成を工夫することができる。	一斉個人	○	◎		
4	5～10	アイデアスケッチを基に心棒をつくり、粘土で制作していく。	材料や用具の特性から制作の順序などを考えながら、見通しをもって表現することができる。	一斉個人		○	◎	
5	11	完成した作品を鑑賞し、よさや美しさについて話し合う。	自分の作品を振り返り、他の生徒と互いによさや美しさについて話し合うことができる。	一斉個人	○			◎

5 本時の学習

(1) 目標

粘土の特性を生かし、様々な表現を工夫して形にすることができる。

(2) 評価規準と指導の手立て

評価規準	十分満足できる状況	努力を要する生徒への手立て
・粘土の特性を生かし、様々な表現を工夫し、形にしようとしている。 (発想や構想の能力)	・粘土の特性を生かしている ・いろいろなイメージを積極的に試している。	・イメージが湧かない生徒は、ヒントワードを示したり、近くの生徒と話し合ったりするように促す。

(3) 資料・準備

水粘土、粘土板、粘土べら、小学生の作品、電子黒板、ワークシート、掲示作品、学習カード

(4) 展開

学習活動及び内容	・指導上の留意点 ◎評価の視点
1 本時の学習課題を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">粘土のできる表現を探そう ー「表現コレクション」をつくろうー</div>	・本時では、何を目標とし、どのような活動を行うか、板書と説明により明確に示し、学習への意欲をもたせる。
2 粘土を使って、技法を生かした小作品を4つ制作する。 ・ちぎる ・丸める ・伸ばす ・へらで切る ・へらで模様を付ける ・繋げ合わせる など (1) 最初は自由に、個数にとらわれず様々な表現を試し、いろいろな形を探す。 ある程度見つかったら、その中から4	・材料に対する抵抗感をなくすために、小学生の作品を生徒に見せ、粘土制作の体験の感覚を想起させる。 ・粘土のできる技法はどんなものがあるか生徒に問いかけ、そこから出た意見や補足を黒板に書き、制作に向けてはじめの糸口を作る。 ・ヒントワードを壁に掲示して、言葉からいろいろなイメージが湧いてくることを全体で確認する。 ・「4つ」という数にとらわれずに、まずはできるだけ多くの表現をつくることを生徒に呼びかける。

<p>つに絞り，形を整える。</p> <p>(2) 完成したものをワークシート上に乗せて，作品名を記入する。</p> <p>3 発表された表現の仕方について，感想を述べ合う。</p> <p>4 本時の学習を振り返り，まとめと自己評価を行う。</p> <p>(1) ワークシートに，制作時の考えや作品についてまとめる。</p> <p>(2) 自己評価カードに本時の振り返りを記入する。</p> <p>5 次時の学習内容を確認し，片付けを行う。</p> <p>トロフィーのアイデアスケッチをしよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手が進まない生徒には，失敗を恐れず，正解は無いことを説明し，まずは粘土に触れていくことを指導する。 ◎材料の特徴を生かし，様々な表現を工夫して形にしている。 (観察・作品) ・途中で手が止まる生徒には，2つの技法を組み合わせるなど，応用することを指導する。 ・授業の後半で発表をするので，自分の表現を説明できるように意識しながら制作するように全体に伝える。 ・代表生徒が発表する際，デジタルカメラで作品を写し，電子黒板に提示することで，後方の生徒にも見えやすくする。 ・話し合いでは，生み出された技法が作品の中でどのような効果に繋がるかについて意見交換できるように支援する。 ・ワークシートに記入する際，感想だけでなく，新しく発見したことや，今後の制作にどう繋げていくかという点に留意してまとめるように意識させたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・次時の学習内容を確認することで，学習への意欲を高められるようにする。 ・今回学んだ表現を，アイデアスケッチに生かしていくように呼びかけ，まとめとする。
--	---